

マニラのスラム街をルポ



横浜市大探検部有志

リーダーは文部省学部三年の大谷 真士君(みよし)。同行するのは商業省 三人が生活を体験するのは、ト 三年の佐々木然明君(ささき じんめい)と、園二 ンド地域におけるスラム。マニ ラで暮らしたり、用足し たりするもので、予備知識を 挿入する。

はやシースを売ったら、日 本事で生計を立てています。水 道の普及率は〇%と遅たるの で、川で洗濯したり、用足し たりするもので、予備知識を 挿入する。

来月5日出発

バラック住まい

低い水道普及率

多い犯罪や暴動

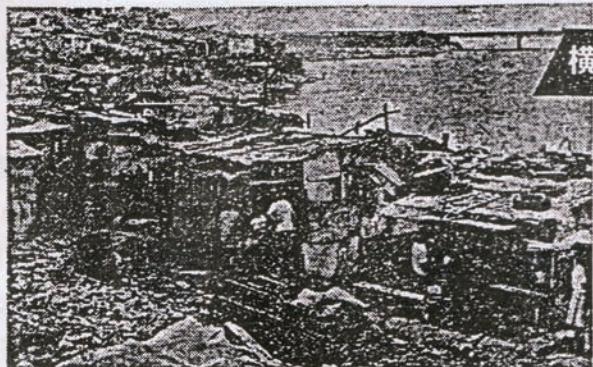
3週間の異文化体験

マニラ行きの準備に忙しい 多くの埋め立て地があり、人口は 約二十万人で、暴動や犯罪も多 い。
佐々木君(左端)、佐々木君(中 央)、渡辺君(右端)＝横浜・ 金沢区の切浜市大探検部室で

あるスラム街で生活、その体験ルポをまとめていた。来月 五日、現地に向けて出発する。経済大国に暮らす日本から、生活環境が劣り、沿岸線も高い街での三週間。三人は「貧 貧かるのは何を考えてみたい」と、遠く隔離に心を寄せ しむ。

『貧しさ 豊かさ』を考える

二三十九



横浜市大探検部のマニラのスラム街報告

「うう、アーティストが書くのがいいんだよ。」

ボランティア活動をして、中田君の
フィーリング男性出会い、案内を
頼んだ。

文理部四年の大谷國十郎(二)遺つてゐる。住民の数は三千廿九をリーダーした商学部四年、佐二万四千人。



ゴミ集積地にひしめく三千世帯
その廃棄物を売って生活してい

貧しいが明るく
金で買えぬ豊かさが…

黄いいけれど子供
たちの表情は明るい
マニラ・ナボタス

「田舎に出てねえで、確か二百二十
ばかりやうに住む人たちは、お
金は貰えない悪いなものを持つ
て、やう思ひました」
三人は口をきかず、うなづいた。

あの人この人'85

ウシ年の挑戦

1985.12.19

アーバン農業生活を体験
大谷 直士さん(31歳)
探検家としての言葉は、現生
活における選択のものではない

夢は日本語学

が、横浜市大探偵部の部長。」
「春、留眞一人で、二三日間の生活。
だ。ベラム街で三重闇の生活。
「ハリの上からお荷物や二三
一袋を見つけ出し、それを差
つて暮りしている失業者が多
いです。食事も「飯に東洋豆
け。豚もボロ」、貧困になり
うつむかのめと思いました。ア
ルも、千人ものための施設は底抜け
に弱いのです。」